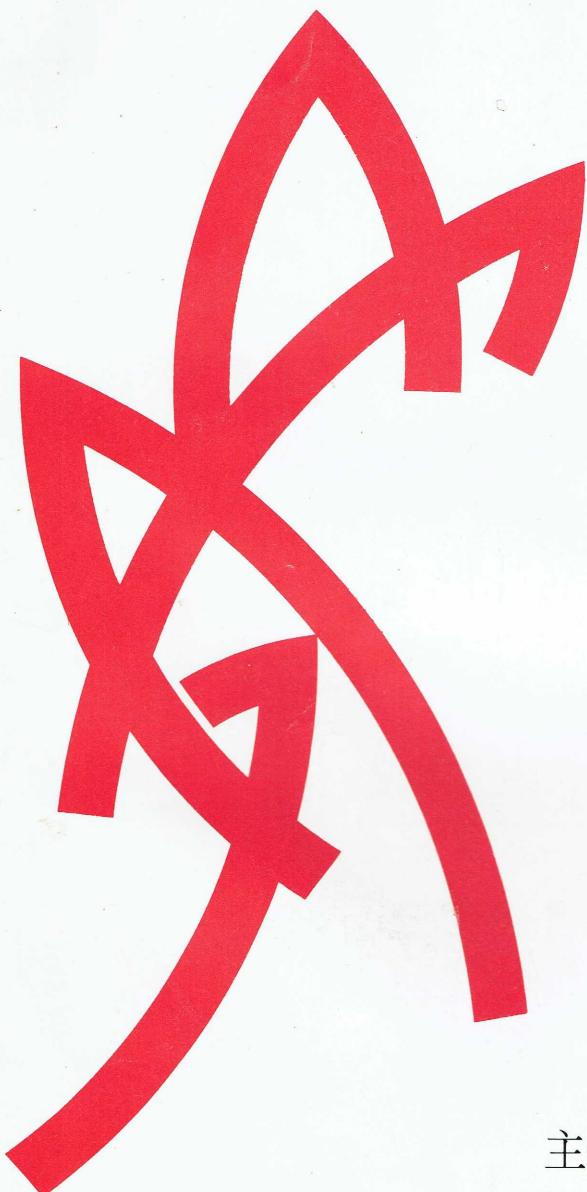


第21回浜松市芸術祭

演劇部門



とき 和年50年11月16日(日)

ところ 浜松市民会館ホール

主催 浜松市教育委員会

主管 浜松市社会人演劇連盟

演劇サークル 鬼の村

ある群れ

湘南高演劇部 作

スタッフ

衣 照	舞 舞	演 演
舞台	台 監	出 出
装 置	督	松 松
裳 明	…	井 松
…	…	堀 中
…	…	松 松

口 本	内 村	島 島
美 武	睦 清	…
代 志	均 均	男 美

キャスト

おばさん	久美子	幸子	露子	夕子	夏子
…	…	…	…	…	…
迫 鈴	田 石	菅	高	松	…
木 平	田 原	橋	島	…	…
ひ ろ う	ひ ろ う	み ろ う	ま り	し め	…
敦 敏	明 砂	紀 理	清 真	…	…
子 代	美 子	子 子	子 美	…	…



皆さんも、友達同士の「友情」、人と人との「ふれあい」というものをもう一度考えて見てはどうですか。

今回は「友情」というものにスポットを当てて見ました。

貴方は、男性女性同士の友情って成立すると思いますか？ 劇の中で友情を感じ、すがりつこうとしている夏子と、友情を否定する露子を中心に、露子の出所をめぐって「友情」とは何か、皆さんに考えても

らう劇です。

劇団からっかぜ

彦市ばなし

木下順二 作

民話と作者

—木下順二—

キャスト

彦市……西井理学
天狗の子……平山真理
殿様……伊奈勇
演出……布施佑一郎

スタッフ

演出助手……小野寺英子
装置……宮下公一
小道具……平井進
効果……野村公一
照明……上川新
湯浅田鶴子……木政明
マイキャップ……宮下公一
照 明 …… 河村直子
湯 浅 田 鶴 子 平 木 政 明 剛 新 平 一 公

戦争中、助手は出征、供出の人と配給は乏しい。残っている若い人々にとつて将来にまつているのは、戦争で死ぬか殺されるかだけで、日々の野良仕事、生産に着実に打ちこむことができる訳はなかつた。都會と同じよう人に間性がふみにじられ、荒廃していく現実この息苦しさの中で、みんなも一緒に力づける美しさと眞実と楽しさをもつ共通の場をさがし求めた。そして、長い間、語り伝えられてきた昔話に心を支えるものを発見して、これを劇に仕込んでみた。誰にでもやれる、誰にでも判る、お芝居を作り出そうと思つたにちがいないと思う。

「むかし むかしのそのむかし九州は肥後のくに、うそつきの大名人、彦市という男がおつたとね。」

ある日、釣りに出かけた彦市どんは、隠れ蓑ば着て姿かくして遊んでいる天狗の子を見つけた。そこで彦市どん「ようし、いっちょ得意のうそで隠れ蓑ば取りあげてくりゅう。」そうして何の変りばえもせん釣り竿ば使って、みんなと蓑ば取り上げた。「さあ、これで明日から好きな事ばして歩こうばい。」そこへひょっこり殿様が来て、「これ彦市、何ばしとつとか。」うそがうそを呼び、次から次へと広がっていく。
さあて、結末やいかに?
そいつあ見てのお楽しみ!!

「彦市ばなし」あらすじ

— < 浜 松 放 送 劇 団 > —

狂言 ミュージカル

「ぶす」—狂言「附子」より

柴崎卓三作

ス タ ッ フ

衣	効	演	出
道具	果	舞台監督	…
小道具	…	置	岡 村 越一
装	…	…	本 和 孝 哲
…	…	…	…
牧水	山石	中野	西脇 昂
野村	下川	中村	口 光 昂
照春	高崎	…	…
彦江	庄勝	…	…
	男治	…	…
	則一	…	…
		…	…

キ ャ ス ト

和	尚	…
珍	念	…
万	念	…
仏	念	…
隣家の女房	…	…
	…	…
大久保	鈴木多見子	…
	…	…
学	洋子	…
	…	…

照	裝	演	出
明	置	舞台監督	…
…	…	…	…

さて、皆さま、「ぶす」とは一体何でしよう？勿論、女性を指す言葉ではあります。」「恐ろしい、恐ろしい毒で、あれが置いてある方から吹く風に当つても、たちまち死んでしまう」という程の毒じや。」と和尚さんは言うのです。腕白者の珍念、ちよつと抜けた万念、かまととの仏念たちと、この「ぶす」はどのような騒ぎをもちあげますことやら……。

今朝も今朝とて、この関西の片隅にあるお寺では、和尚さんがおつとめの最中です：

演劇サークル「鬼の村」

劇団「からつかぜ」

浜松放送劇団

みなさん、こんにちは、演劇サークル「鬼の村」です。今年も浜松市芸術祭に参加しました。私たちのサークルも今年で三回目です。今年のサークルの特徴は平均年令の若さです。十八才から二十一才、平均十九・五才ぐらいとにかく年頃の女の子が三分の二以上を占めています。

私たち、浜松短期大学Ⅱ部の学生を中心いてI部学生、卒業生が加わって現在のサークルを形成しています。私たちのサークルの最大の悩みは練習時間の問題です。仕事を終え講義を受けければもう八時四十分。それから練習を始めて九時三十分まで毎日苦しい練習、もちろん日曜日も練習日。仕事も楽し、講義も楽し、サークルも楽し、などと甘いことはかりでは決してありません。仕事も苦しい、試験もある、サークルもうまくいかない。これでは体の休まるひまもないと言つてくる人もいます。

恋も、愛も、デートも、旅行もしたいが、学園祭、芸術祭が終わるまでと、仕事をし、勉強をし、サークル活動をし、前期試験の結果は? 打上コンパは、などと言いながらの毎日、鬼の村の住民一同、心を一つに演劇の鬼になれたら。りっぱな部落になれるのではないかと思うのです。

—昭和五十年度 村長—

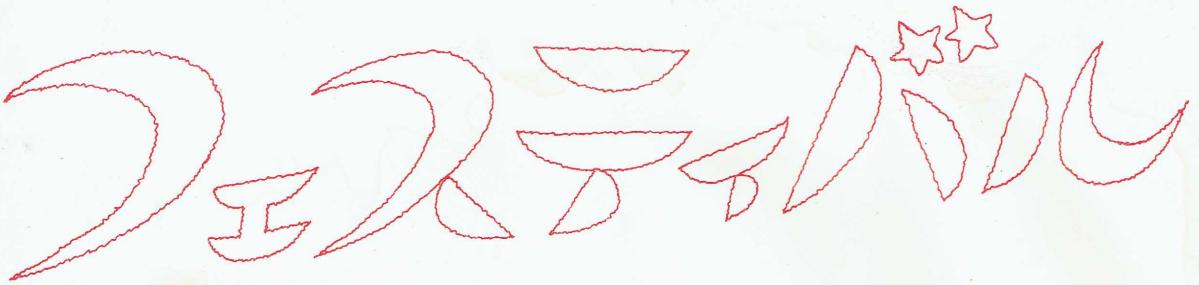
からつかぜが浜松に生まれたのは、今から二十一年前。浜松で良い演劇をつくりたい。そんな思いの中から生まれ、数多くの作品を上演してきました。また、浜松市芸術祭や観賞団体を生み出し、発展させる力となつて浜松に良い文化を広げてきました。

私たちは昼間働いて、夜稽古場にあつまります。東は掛川、西は豊橋から。職業も農業、教師、銀行員、ブレック、国鉄などいろいろです。現在劇団員三十名研究生八名。平均年令二二・五才、若々しい集団(のつもり?)です。

この遠州の地に根をはつて観客の皆さんといっしょに喜び、悲しみ、いっしょに考え、行動して、その中から生きていく喜びを感じあえるような演劇をつくりつづけていきたいとはりきつてているのです。

劇団は、ただ今、次期自主公演作品として遠州堀江藩(現在の遠鉄館山寺遊園地に陣屋があつた)が明治維新にまきおこした「万六騒動」をテーマにした村越一哲作、堀江藩始末「五千石の湖」を、明年三月五日浜松市民会館で上演することを決定し、練習に入っています。

「浜松市鍛冶町一四〇の四
丸市商事内 村越一哲方
(電)五四一八一五一」



❖ 鬼 の 村

踊って 歌おう !

みんないっしょに

「四季の歌」他

❖ からっかぜ

◦ チェーホフ 作 「結婚申し込み」より

◦ ソーラン節

❖ 浜松放送劇団

影絵しばい

榊原政常 作 「次郎かかし」